新潟シティガイド

NO．16号
≪編集発行≫
新潟シティガイド
≪発行人≫
八木　洋

新潟市の観光における「新潟シティガイド」

新潟市文化観光・スポーツ部
観光政策課長
山口　誠二

来年四月～六月の新潟ディスティネーションキャンペーン（JR六社と地元の観光関係者や自治体が一体となって展開する大型観光キャンペーン：以下DC）に先立ち、今年三月～六月はそのプレイベントを実施しています。その取り組みとして、「食」「花」「酒」などをテーマとした各種イベントの開催やおもてなし態勢の充実を図っているところですが、新潟に来て頂いた方に新潟のファンになってもらい、リピーターとして何度も新潟に来ようと思って頂くことが大切と思っています。そういったことからも、多くの来訪が見込まれる新潟DC期間中は、訪れた方々から、まずは新潟市の魅力を十分に知っていただくという面で大変重要な期間となります。

新潟市には多くの魅力がありますが、みなとまち新潟の魅力を伝えるということに関しては、新潟シティガイドの皆さまによる「まち歩き」が重要な要素と思っています。

新名所「メディアシップ」

開港五港の一つである本市の魅力は、特定の観光地を訪問するのではなく、地域が育んだまち全体の歴史や風土を体感してこそ活きてくるものです。「まち歩き」はそうした状況に最適であるのはもちろんのこと、新潟本来の姿を知ることで、訪れた方々に新たな関心を引き起こしてくださるものと思います。

新潟シティガイドは設立から五年が経ち、多くの来訪者のガイドをされていますが、そうした方々にとって皆さまとの出会いは新潟滞在のよい思い出になるとともに、本市のイメージを構築する上で欠かせないものとなっていると思います。これからも「まち歩き」を通して、ガイドの皆さまが新潟の顔として下さることを期待しております。

満五歳の「新潟シティガイド」

八木　洋
シティガイド代表

新潟シティガイドは、この四月で設立満五年になります。平成二十年、年間のお客様の目標を百五十人とし、会員二十五名で発足しました。何から何まで手探りでのスタートでしたが、初年度のガイド実績は個人、団体等すべてを合わせて一千八十一人でした。以来、広報紙を発行し、ホームページを立ち上げ、ガイドコースを整備し、ガイド活動と会の運営に力を合わせてまいりました。現在、会員は五十二名、平成二十四年度のガイド実績は二千二百人程と予測されます。基本コースの充実を図り、施設の見学や体験型のガイドを特別企画として取り入れました。外部企画でガイドを担当させていただく機会が増えてきていますし、県外のお客様がホームページから申し込まれるケースも着実に増加しています。

新潟には「見るべきものが何もない。」との言葉に反論するところから始まり、新潟の魅力を発信しようと頑張ってきたわけですが、ようやく私たちの活動が認知されてきていると実感できるようになりました。これもひとえに会員一人一人の努力と市役所観光政策課、中央区役所、新潟観光コンベンション協会等関係する皆様のご協力のおかげと深く感謝いたします。

五年間の「まち歩き」ガイドの活動をとおして感じたことは、「新潟市が観光地になり得る。」ということです。北前船の寄港と後背地の川の舟運によって繁栄し、伝統息づく湊町新潟は全国に誇れる「まち」です。歴史的建造物やおいしい料理と古町芸妓のおもてなし文化、信濃川、阿賀野川と日本海に抱かれ、空が広いと形容される「まちなみ」これらは立派な観光資源です。一方、まちの中のなにげないものに興味を持つお客様が多いことに気が付きました。私たちガイド自身が面白いと思うものに共感してもらえることもわかりました。自己満足はガイドの強力なエンジンですが、「いかにしたらお客様に楽しんでいただけるガイドができるか。」このことこそ、私たちの永遠の課題ではないかと考えます。初心に帰って、ともに新たな一歩を踏み出すことを願ってやみません。

「えんでこ」まち歩きフォーラム
に参加の八木代表

ガイド日誌

自分らしいガイドを

小野塚　昭美

新潟に豪雪波浪警報が出た日に宇都宮からのお客様二名、古町の花街と本町市場をご案内しました。前日、下田の嵐渓荘に一泊されての新潟観光との事。お客様とは何回かのメールや携帯でやり取りをして、その中でランチ場所を紹介してくださいとの事でしたので、加島屋さんを紹介し加島屋さんの店先で待ち合わせしてのガイドスタート。

以前の下町研修の時、八木代表の鍋茶屋さんの裏側からのガイド説明の印象が強く最初のガイド説明は鍋茶屋さんの後ろ姿からさせて頂きました。

「コープランド墓前祭」の
ビールかけに参加

九時三十分から十二時までの二時間半で、コースは石川町駅から横浜山手を回り赤レンガ倉庫のある港まで約四キロメートルでした。市内を一望できる高台からの眺めも素晴らしいものでした。

コース内で少しでも新潟に関連する人物があったりすると、書物などを示して説明してくれます。外国人墓地でのことです。偶然「ウィリアムコープランド墓前祭」に出会い、関わりのある人多数が参列していました。この人、ノルウェー人で「日本ビール産業の祖」だそうです。

私たちが新潟から来たことを知ると「遠来の人」ということで、墓へのビールかけを体験させてくれました。

目的地には予定時間ピッタリに到着し、午後からの行事にもゆとりを持って参加できました。

「まち歩き」ガイドの初心者であった私たちにとって、ガイドのお手本になるような心に残るガイドでした。

感想：歴史遺産の取得・保存・公開これが横浜のコンセプト。

代表の部外活動報告

新潟シティガイド、八木代表は、関連する各機関からの要請により、左表の様な活動を行いましたので、報告します。参考として下さい。

（平成二十四年十一月～平成二十五年三月）

日　程	活　動	内　　容
11月28日	取　材	オフィスカイ（上田浩子）「しんらんさん歩」まち歩き
1月30日	出　張	中央区地域課・長崎出張に同行（2泊3日）「長崎さるく」視察
3月　7日	講　義	新潟市観光政策課国際広域観光室 国際ボランティアガイド養成講座
3月16日	論文発表	実行委員会 人と環境にやさしい交通をめざす全国大会in新潟
3月23日	フォーラム	中央区地域課 「えんでこ」まち歩きフォーラム

・聞いたことは忘れる
・見たことは思い出す
・体験したことは理解する
・発見したことは身につく

‥‥会　員　紹　介‥‥

写　真	氏　名	住　まい	趣　　味	関心のあること	新潟シティガイドの抱負
	諸橋　紘一	東区中山	歴史探訪、読書、 考古学、落語観賞	老化防止、自然環境保全、 箸墓古墳の解明	人生は常に青春。出会いふれあい喜び、好奇心を持って、共に学ぶこと。
	二瓶　芳枝	中央区京王	旅行、ゴルフ、 国際交流	各地のまち歩き ゴルフスコア100切り	まだまだ学習中ですが、一期一会が、二期二会になるようなガイドを目指す。
	羽賀　五郎	江南区曽野木	自己企画の長距離ﾄﾞﾗｲﾌﾞ旅行 古寺名刹探訪	健康 地域貢献	hospitalityを心掛け新潟まちにこんな歴史と文化が有ったのかと新たな発見と興味をお土産話として戴ける様なｶﾞｲﾄﾞが目標
	横山　幸子	中央区西堀通	お気に入り喫茶探し ドカベン・犬夜叉号で景観を楽しむ	Noismのﾀﾞﾝｽｶﾝﾊﾟﾆｰ活動のすべて 新潟の四季の風・緑・人との出会いを求めて自転車に	ｶﾞｲﾄﾞ仲間のみなさまの心熱き研修&実践の日々が素晴しく大きな励みです。ｶﾞｲﾄﾞ力向上をめざします。

広報からのお知らせ！
・ホームページが新しくなりました。
・ブログへ投稿して下さい。（メール・ＦＡＸで広報担当へ）
・ホームページ利用者
19,366人（開設より）
・申込者・問合せ
７１件

広報担当　勝見　進

編集後記

新潟市観光政策課　山口課長様はじめ、会員皆様から積極的に投稿して頂きましたことに、心から感謝いたしております。

さて、前回、広報紙十五号を皆様のご協力により無事発行することが出来ました。会員皆様におかれましては、色々のシチュエーションの中で、とても有意義で充実したガイド活動を行っている事を知ることが出来ました。この素晴しい活動を、より多くの市民の方々にもっと知って頂きたいと思い、今回以降は次の様な考え方で、この広報紙を配布して参りますので、会員皆様のご協力をお願い致します。

・各関係先へ（広報担当で）
・ガイド夫々が日頃お世話になっているお店や個人（各エリア担当で）
・賛助会員等へ配布（広報担当で）

なお、十五号は、古町老舗各店舗様へ私から出向き配布しましたが、皆様とても喜んでおられました。

今年も本格的な観光シーズンを迎えますが、お客様の多様なニーズに応え、臨機応変に対応して行く場面も出てくると思っています。その意味からも会員相互の情報交換のツールとして広報紙を有効に活用されますことをお願い致します。

私の思っていた通りのお客様の反応で八木代表に改めての感謝です。

その後ＮＥＸＴ２１の展望階に。その日は西の空には薄陽が差し天使の梯子、東の方は某映画会社よろしくのテトラポットへの波しぶき。異なる日本海の姿に海なし県からいらっしゃったお二人には大変喜んで頂き、冬の新潟もまんざらじゃないとうれしくなりました。お寺の甍の波が絵画のように続く姿に感激していただき、こんな瞬間はガイド冥利に尽きます。本町の市場では冬のブランド野菜女池菜や五泉のサトイモ・帛乙女・岩船のまんじゅう麩・切干大根と新潟の食文化の多彩さにも驚かれた様子。

本　町　市　場

鍋茶屋　東堀通り側より

およそ二時間のガイドで何よりも私自身が新潟の良さを再発見しました。これまでも何回か県外のお客様をご案内させていただきましたが、最後に楽しかったとの最高のほめ言葉と笑顔をいただくと新潟シティガイドさんに入れて頂いて本当によかったと思います。未熟ゆえ不安でいっぱいになりますが、ガイドしたお客様一人ひとりの笑顔を思いだし、それらを糧に小野塚らしいガイドを一生懸命していきたいと思います。会員の皆様のご指導宜しくお願い致します。

「旅市」での奇遇

諸橋　紘一

昨初夏、「旅市」での出来事。某日、「港すし」さん前で待機。お客様のお名前は伺っていましたが、不安で緊張をしていた。やがて、痩身の気品に溢れるご婦人と挨拶を交わすことになりました。「長野市から参りました、〇〇です。」この一言で大丈夫、今日はうまくやれると笑みが湧きました。長野市は私の初任地、新婚当時と七年間過ごした思い出の地。会話の弾みで「善光寺裏〇〇町の〇〇荘に住んでいたことがあります」とお話したら、しばし沈黙の後、「私も善光寺の裏です。〇〇荘はマンションになりました。」時代の変遷に驚きながらも、これ以上の会話は意図的に避け、古町花街から下町へ向かいました。途中、お客様から時間が十分あること、神社仏閣は毎日善光寺を見ているから、余り興味がないこと、新潟の食材やお店が見たいこと、夕食は古町近辺で新潟の銘品を食味したいなどのご要望を頂き、急遽、古町界隈のお店を散策。特に「八百重」さんに興味を持たれ、店内をじっくりご覧になり、何かをお求めになりました。

長野　善光寺

その間、頭の中は、夕食にどのお店を紹介すれば良いかのことばかり。食通にほど遠い自分には困った問題。その時、「田舎家」さんの看板を見つけ、そうだ「わっぱ飯」で決まりだ。「お酒は何を頂いたら良いかのお尋ねがあり、「今代司・越の華」をお薦めした。

ガイドの最後は「みなとぴあ」。信濃川河口をご覧になり、「ここが千曲川の終点ですか」と感慨深い様子であった。お別れに名刺を求められ、後日、丁重なメールを頂いた。「わっぱ飯もお酒も美味しかった。私は〇〇荘の大家の娘で、あの頃は中学生でした。余りにも偶然で、あの時に言えませんでした。料理講師をしています。」唐突な言葉に私は硬直した。さらに、「長野市は善光寺に頼りっ放しですが、新潟市は地域一体のガイド活動が盛んで立派だと思います」のご感想であった。

そういえば、〇〇荘の隣家が大家で、ヘヤーバンドの似合う少女が、自転車を乗り回していたことを、遠い記憶の中から蘇らせた。

信濃川の終点は新潟港

お勧めスポット

今代司酒造と入船地蔵尊の係わり

間島　勝利

下町の本町通り十四番町にある浄信院に安置されている御本尊入船（船）地蔵が佐渡から渡来した時の由来が「古老百話」（沢村洋編）に紹介されている。この御本尊入船地蔵の渡海に沼垂の今代司酒造の先祖が係わっていることがわかった。

入船地蔵尊

そのきっかけはガイドで酒蔵見学をしたとき案内をして頂いた九代目蔵元山本氏が「当社は明和四年（一七六七年）創業の歴史があり東堀十二番町に但馬屋という屋号で酒の卸商を営み、北前船を使い佐渡や北海道方面に商いをしていた。沼垂で酒造を始めたのは明治三十年頃です」この説明を聞いた時、小学生の頃、思案小路の角あたりに、店頭の柱にホウロウビキの「今代司」の看板を掲げた老舗の風格を感じさせる酒屋さんがあったことを思い出した。但馬屋という屋号も「古老百話」の入船地蔵尊の話に出ていた記憶があり、後日「古老百話」のコピーを持参し山本氏を訪ね問い合わせたところ「こんな話があったことは初めて知りました。ここに出てくる但馬屋はまさしく、私どもの先祖だと思います。最初の頃は船宿のようなこともやっていたようです。」と言われた。浄信院のご住職関川氏にも問い合わせたが、今代司酒造との関係は知らないが、入船地蔵尊に係わる古文書が出てきたので整理中であるが見に来るよ

うに言われ、下町リーダーの渡辺氏と同行し見せてもらった。明治、大正、昭和初期の文書で入船地蔵尊の由来に関する文書は四種類ほどあった。

今代司酒造の先祖但馬屋に関係する箇所を抜粋すると「（略）享保三年（一七一八年）九月八日佐州（佐渡）羽黒山ヨリ渡来シ玉フト傳フ地蔵尊ハ御丈二尺八寸ノ石像ニテ佐州羽黒山覚念ト銘アリ（中略）丹州ノ国（丹後、丹波）桶（フ）屋船佐州夷港ニ碇泊ノ砌（ミギ）リ一人ノ僧来タリ、（中略）船中上陸后問屋但馬屋方へ投宿シ地蔵尊ヲ當港源四郎小屋（水戸教小屋）ノ傍ラニ安置ス（略）」とある。

このような文言からすると地蔵尊は今代司酒造の先祖問屋の但馬屋が使用した北前船で渡海したものと思われる。

色部長門追念碑の建立

深澤　一彦

慶応四年一月頃江戸幕府崩壊のきざしが見え始めるとともに江戸や会津から脱走兵が数百人程新潟町に入り込み傍若無人の状況となった。兵力を持たない新潟町奉行所は手の打ち様がなく六月一日奉行代理の田中廉太郎は東軍総督色部長門に新潟町の全権を引き渡し江戸へ引き上げた。これにより新潟町の治安も早々に解消された。しかしこのわずか二ヶ月後に西軍と戦って無念の戦死をするとは予想していただろうか。

色部長門　追念碑

色部長門が関屋の地で戦死してから約六十数年後の昭和七年旧関屋村庄屋斉藤家の第十三代当主だった斉藤巳三郎が戊辰新潟戦争時に東軍総督の新潟町撤退の決断が町の民衆を大きな戦火の難から救う責任を果たされたことと遭遇戦でたとえ少数であっても敵に後ろを見せず勇猛に立ち向かった武士道亀鑑たるを偲んでこれを千古に伝えたいと自から会長となり「新潟関屋戊辰戦跡保存会」を設立し、当時関屋田町の湿地帯の埋立整地等の事業を行っていた「関屋土地区画整理組合」が後援となり、現在地を戊辰公園として関屋地区住民の勤労奉仕で整備し、【色部長門追念碑】が昭和七年八月建立された。

碑の石材は水戸花崗岩で高さ四．七ｍ、国文学者徳富蘇峰の題字が刻まれている。

八重桜

立ち寄り

入山　紀子

まち歩きで立ち寄りたいところ、立ち寄って頂きたい所は、白壁通りの旧齋藤家別邸での大変好きなところです。七年新潟の大財閥、四代目齋藤喜十郎さんが、お客様をおもてなしするために建てられた夏の別邸、庭屋一如のお邸、現在ご縁がある事に感謝しています。あるきっかけで、最近新潟市を唄った鉄道唱歌に出合い、すっかり気に入って歌っていましたら齋藤邸の歌詞が思い浮かびました。

皆様に親しんで頂けたらいいな。なんてかってに思ったのですが、こんな詩になりました。

一、夏の別邸齋藤邸　お庭は池を囲みきて、砂丘の傾斜　そのままに四季折り折りの　錦の絵

二、今この世の平安の　高なるビルのただ中に時代を伝える　お邸は大正時代の　おもてなし

旧齋藤家別邸

訪れる人々の心を癒してくれる旧齋藤家別邸は、新潟の宝物に思えるのです。

西大畑エリア研修を終えて

高橋　敬文

平成二十四年度は三期生が多数入会したこともあり、ガイドスキルの向上を目指し、各エリアチーフが中心に、多岐にわたる研修会が鋭意実施されました。前回に続き二回目を報告します。

「研修」で想うこと

平成二十四年度にデビューをした方も多くおられたと思います。うまく案内できた方、思うようにいかなかった方、人それぞれと思います。自分の場合をかさねても、当然と思います。殆どの方が、グループ研修や、自己研修を経てのデビューと思います。

先日役員会で「研修」のことが話題に取り上げられて、いろいろな意見が出され、「研修」についての目的、意義も人それぞれですが、それでも、「研修」の成果については、残念ながら、満点とはいかなかったようです。私は、研修の成果を出すも出されなかったも最後は各々個人の努力だと思います。初めてであれば当然、その筋立てを知る必要はあります。

しかし、筋立てが分かれば、あとは、どのようにストーリーを展開するか、はその人の脚本です。利用者にとって、楽しい「まち歩き」となるか、平凡な味気ないものになるかは、その人の脚本にかかっています。

プロローグからエピローグまでに、ここではこんなことをくわえれば、笑を誘うかな、こんな順序で展開すれば、これも入れられる・・是非、脚本家になってください。

「楽しいまち歩き」「新しい新潟の発見を」私が心がけているモットーです。でも、なかなかムズカシイものですね。

心に残るガイド

加藤　文夫

平成二十年六月二十一日、横浜市は開港百五十年で湧いていました。開港五港の函館・新潟・横浜・神戸・長崎の関係者が横浜に集いました。

発足間のない新潟シティガイドも観光ガイドの一員として招待され、八木代表・関副代表とともに参加させていただきました。その際に、横浜シティガイド協会会長の嶋田昌子さんが、私たちのため横浜市内をガイドしてくださいました。記念イベントで何かと多忙を極めていた中、時間を割いてくださったのです。